

水稻直播特報

令和5年6月15日

魚津市
魚津市農業技術者協議会

5月中旬～下旬の気温は平年並み～やや高め、日照時間は平年並み～やや多めに推移したことから、概ね良好な苗立ちとなりました。

しかし、やや深水ぎみの水管理が継続して行われたほ場では、茎数が少なく、軟弱徒長気味に生育していることから、速やかに浅水管理に切り替えるとともに、溝掘りや中干しを適期に行いましょう。

1 稲体の健全化を図るため、中干しを徹底しましょう

◎水管理をスムーズにし、中干しを効果的に行うため、中干し前に溝掘りを行いましょう。
(5mに1本程度)

◎1m間の茎数が100本程度になったら、中干しを速やかに実施しましょう。
苗立ちの多いほ場では、茎数が過剰になりやすく、倒伏が懸念されるので、速やかに溝堀りや中干しを始めましょう。

- 1 ほ場ごとの生育状況をみて、順次、中干しを開始する。
 - 2 田面に1cmぐらいのひび割れが入り、足が沈まない程度の中干しとする。
- ※極端に強く干し過ぎると、穗数不足や除草効果が低下するので注意しましょう。

2 中干し後は間断かん水で、根の活力を高めましょう！

◎幼穂形成期（7月中旬頃）までは間断かん水を続け、根に酸素と水分を十分に補給しましょう。

【間断かん水の目安】

1日湛水、3日程度落水

※茎数が多い場合や葉色が濃い場合は、落水期間を1日程度長くしましょう。



3 「ケイ酸」と「カリ」を施用しましょう！

◎根の活力を高め、稻体を硬く健全に保つことで倒伏を軽減する効果があります。

エスアイ加里らくだ 施用量 15kg/10a ※施用時期：6月中旬～下旬

エスアイ加里カリ投げくん 施用量 4kg/10a ※施用時期：6月中旬～下旬

※「エスアイ加里」は、オリゼメート粒剤と同時に施用することができます

4 いもち病を予防しましょう！

◎は種時に、いもち病の予防薬剤を使用していない場合、必ず散布しましょう。

農 薬 名	対象病害名	散布量(10a 当たり)	散布時期
オリゼメート粒剤	いもち病	3kg	6月20日頃 ※収穫14日前まで

※湛水状態（水深3～5cm）で散布し、4～5日間は田面を露出させない。

また、散布後7日間は落水・かけ流しを行わない。

※二カメイチュウによる「さや枯れ」がみられる場合は、営農指導員にご相談ください。

5 雑草が発生している場合は、除草剤を散布しましょう！

◎雑草の種類や発生状況を確認し、適切な除草剤を選んで散布してください。

雑草	除草剤	散布時期	散布量（10a当たり）	備考
ノビエ 広葉雑草	アクシズ MX 1キロ粒剤 (湛水して処理) ※収穫45日前まで	稻1葉期～ ノビエ4葉期 ※収穫45日前まで	1kg	散布後7日間は、落水しない。
	クリンチャーバス ME 液剤 (落水して処理)	は種後10日～ ノビエ5葉期 ※収穫50日前まで	薬剤1000ml 希釈水量70～100l	散布後3～4日間は、入水・落水しない。
	トドメバスMF 液剤 (落水して処理)	は種後10日～ ノビエ6葉期 ※収穫50日前まで	薬剤1000ml 希釈水量70～100l	散布後3～4日間は、入水・落水しない。
ノビエ のみ	トドメ MF 1キロ粒剤 (湛水して処理) ※収穫50日前まで	稻3.5葉期～ ノビエ4葉期 ※収穫50日前まで	1kg	散布後7日間は、落水しない。
	トドメ MF 乳剤 (雑草茎葉散布)	は種後10日～ ノビエ6葉期 ※収穫50日前まで	薬剤200ml 希釈水量25～100l	※展着剤は使用しない。
広葉雑草 (ノビエ以外)	バサグラン粒剤 (落水して処理)	稻3葉期～ 入水50日後 ※収穫60日前まで	3kg	散布後3～4日間は、入水・落水しない。